

淡墨桜の生命力

時は飛鳥時代の聖徳太子が活躍していた西暦 500 年代の頃。岐阜県の山奥に運命の桜が生息していた。以来今日までその桜は幾多の危機を乗り越えて、1500 年という気の遠くなる歳月を生き続けてきた物語である。

この日本を代表する名木・薄墨桜は岐阜県本巣市根尾板所にあり、根尾谷薄墨桜として親しまれ品種は彼岸桜である。樹高 16.3m、幹回りは 9.91m、枝張りは東西 26.90m、南北 20.20m。大正 11 年 10 月 12 日には内務省天然記念物に指定されている。

現在の日本では染井吉野が主流を占めているが、桜には 300 余種あるといわれている。この薄墨桜は蕾の時は薄いピンク、満開に至っては白色、散り際には特異の淡い墨色を帯びてくる。

山深い小高い丘の上に威風堂々と、見事な風格の薄墨桜が美しい花を咲かせていた。私はその存在に圧倒されるかのように、尊敬の念を持って暫し見とれてしまった。心の中で「良くここまで生き続けてこれたね。貴方は見る人に夢と希望を与える素晴らしい使命を持っておられるのですね…」語らひは尽きなかった。

長い人生を生きていると時にケガをしたり病気にもなったりする。たかが 80 年前後の寿命であつてもそうだ。それが樹齢 1500 年ともなると想像すら出来ない。数々の嵐・風雪・異常気象にも耐え、多くの人間に支えられ助けられての今日であつたが、生き続けることの素晴らしさ「奇跡の桜」に心よりの拍手を送らせて頂いた。

撮影 2012 年春

